

# ファッションタウン桐生「2009わがまち風景賞」 審査講評と審査経過

## 1. 審査講評

### 『バラエティーに富んだ見学会』

審査委員 齋藤 千江

今回は「審査会」と「現地視察」(私は見学会と言っています)が別の日になって、「打てば響く」ような感覚が少し鈍いと思える私は、前の数回の審査会より落ち着いて、プロジェクトメンバーの方々の推薦作品を見ることができました。また、審査会あるいは現地でひとつひとつの作品のお話をお聞きすると、より作品に深みが増して、プラス@の重みを感じることができました。

私は、風景といっても建築物を中心に考えてしまう傾向にありますが、いろいろな角度から審査する目があっていいのだと良い刺激になりました。住宅、お店、のこぎり屋根の工場、社寺建築、バラエティー(多様性)に富んでいて楽しい見学会でした。日を別にして行われた審査会で、見てきた作品をゆっくり思い起こし考えることができました。以前のように同日中の見学会・審査会は即決でいいと思いますが、私の中では不完全燃焼で終わる感じでした。

当日参加された方々、意見、感想が十人十色でたくさん投げかけられて、感想が言えて自分の中では今回の審査会が充実したものになりました(自己満足です)。参加した当初は、何も話がまとまらずに場違いな感じで、とても緊張しました。今でも緊張するのは変わりませんが、普段ではお会いできない方にごあいさつできただけでもうれしく思います。

商工会議所の皆様には、建築士会で行事を行ったときにご協力していただいて、このファッションタウン推進協議会の行事を通じてたくさんの輪が広がりました。ありがとうございました。まだまだご縁が続きますように、これからもよろしく願いいたします。

(群馬建築士会桐生支部女性部会)

### 『個人の力が支える』

審査委員 岡 義明

私は、桐生第一高校で美術の教員をしております。今回初めて本校の美術部員2名と共に審査委員として参加させて頂きました。これまで個人としても、ノコギリ屋根を芸術家の共同アトリエとして利用したり、宮本町の和洋折衷を自宅にしたりと、良き桐生の遺産と関らせて頂いてまいりました。その中から強く感じた事として、桐生市民が誇るべき文化レベルでの建築物などの多くが、個人の力によって支えられ遺されてきているという事実です。建築物を保存活用させるには当然お金がかかります。行政サイドで行われている保存も大切ですが、それだけでは括れない、将来に向けて注目すべきものが、この桐生にはたくさんあるように思われます。この部分での大きな役割がこの「わがまち風景賞」にはあると思っています。

(桐生第一高等学校教諭)

## 『織物の街「桐生」を感じた』

審査委員 星野 勝美

今回初めて「わがまち風景賞」の審査に参加させていただきました。今まで新緑とか紅葉などの景色については写真を撮ったりしていますが、建物と景色を一体のものとして「風景」と考えるなど思ってもみませんでした。

桐生（旧桐生市）のすぐ側に住みながら、のこぎり屋根を見ても特に何も感じませんでした。今回審査のために見学させていただいて、改めて織物の街「桐生」を感じました。

こうした風景をできるだけ残しておきたいと思うと同時に、使われなくなった建物が他に転用できなかったときは、壊されていく運命にあるのかなあとも思いました。

一方で、f.firstのように全く新しい風景が選ばれたのも良かったと思います。

次回のことを考えると、今回は選ばれなかった「千本木住宅と大クスノキ」など、農家と田園風景も選ばれると良いと考えています。

（元黒保根村収入役）

## 『その風景が語りかけてくる』

審査委員 鹿田 雄三

その現場に立つと、わがまちの風景が語りかけてくる。わがまちを作りあげた歴史や伝統、人の生活、風のおいや水の音である。つまりはなぜその場にそれがあるのかということになる。

選ばれたものは、ずっと使われているもの、改装や新しいものなど様々である。その場を訪れ、たたずみ桐生を考える機会にしてほしいものである。

（NHK 文化センター）

## 『桐生らしい魅力あるまちを目指して』

審査委員 久保田恵美子

雨の中始まった現地視察も、いつしか晴れ渡り、そのせいか緑の鮮やかさが増し絶好の視察会となった『2009わがまち風景賞』。

どの案件に於いても、歴史的に特徴のある建物、美しい山並み、その日々の生活環境から歴史と伝統を強く感じさせられました。特に印象深かった案件は、古き良き物件を所有者が個性豊かに魅力ある建物へとアレンジし、地域と融合させながら活用している姿であります。そして、それは実に“みごと”である。古き良き伝統ある風景は、沢山あると思いますが、これを新しい物へ生まれ変わらせ、活用した風景など、これは、「わがまち風景賞」の目的の大きな要素であると考えられます。

結論としましては、『わがまち桐生』を緑豊かな自然環境のなかで、歴史的背景を持つ、活気にあふれた“桐生らしい魅力あるまち”にし、後世に向けて伝承する事が、重要であると考えます。最後に、今年度につきましては、2日間に渡る行程で実施され、より充実した現地視察および審査会でありました。

（桐生大学短期大学部アート・デザイン学科長）

## 『強い存在感』

審査委員 渡邊 保

2009わがまち風景賞の審査に初めて参加させていただいた。案内され訪れた建造物など全てにわたって感じたことは、いずれも市民または各個人に深く関わって存在感を示しているということだった。現時点で使われていないものであっても過去の営みが現在まで強く伝わってくるものであった。

審査当日迄日数があったものの選定の基本的な方針を一読した程度でその場に挑んだことが悔やまれるが、調査する対象物から発せられるメッセージは強い説得力を持ち私の不安を打ち消して余りあるものがあった。現地から学んだ・・・ということでしょうか。

選考の結果については、多数の市民に十分受け入れられるものであると考えている。

(桐生美術協会会長)

## 『魂を感じて』

審査委員 小林 正人

桐生市内で風景としてのロケ地としてなりえる場所は、自分の足で稼いでいて殆ど網羅していると思っていた。しかし、新たな発見も数多くあり、桐生の歴史・文化の奥の深さも肌で感じる事ができた。

実際にロケ地となる条件としては、単体の建物だけではなく、風景として、いかに条件に合うかがポイントとなり、今回のノミネートされていた風景はどれも今後スクリーンやテレビ画面のなかで映し出される可能性が高いため、乞うご期待いただきたい。

さて、今回の審査のポイントは“交流”というものを重視させていただいた。ノスタルジーに頼るものではなく、現在もその風景が、人と人との交流であるファンタジーの要素も大切だと思う。そこでの歴史的な生活感や文化的な価値という魂が混在しているからこそ、素晴らしい風景という形で表現されるのではないだろうか。

今後も世界に発信できるファンタジーという魂探しに励みたい。

(わたらせフィルムコミッション事務局長)

## 『桐生らしさの発見』

審査委員 中島幸好桃

今回、初めて参加させて頂きました。選考候補地をバスで巡ったあとに審査をするという2日間、自分は地元が桐生なので、これを機会にさらに桐生市の歴史や土地に触れることができ、良い経験ができたなと思いました。

そして、入選候補地を5件選ぶのはとても難しいなと感じました。候補地は古いものから、新しいものまで幅が広く、中には自分が普段見ているものもあり、5件選ぶのに苦労しました。また、そう思う中で、「桐生市も目線を変えるとこんな所に桐生らしさがあったのか」と驚きました。これからもドシドシ風景賞で、桐生らしさを見つけてほしいと思います。

今回は、本当にお世話になりました。

(桐生第一高等学校美術部)

## 『勉強になった』

審査委員 津久井夏美

私は今回、部活動の一環として参加させて頂きました。ただ、写真を見て選ぶのではなく、実際に身を運んで現地の人に話を聞くということで、桐生市民ではない私も深く考えて審査することができました。どの応募案件もその場所に似合った素晴らしいものばかりで、5件にしようということに凄く悩みました。現地視察の次は審査会ということで、何を言おうか緊張していたのですが、皆さんのまっすぐな意見を聞いて真剣に発言することができました。

最後に、このような機会に出会えて、本当に良かったと思います。ありがとうございました。

(桐生第一高等学校美術部)

## 『記憶の原点に出会った』

プロジェクトメンバー 星野 尚香

今回の候補案件を眺めるにつけ、よくも毎年新案件が出てくるものだなと、改めて桐生の懐の深さに感心するばかりでした。どの案件も、その地にあってそれぞれの物語を紡いできた“味のある建物”ばかりでした。中でも、幼少時代を過ごした桐生大学附属幼稚園に思わず強めにテコ入れをしてしまいました。母校であるにもかかわらずノコギリ屋根工場をリサイクルした建物であることを、初めて知った驚きと同時に幼い頃に見た園舎の天窗からふりそそぐ“光の景色”が脳裏に鮮やかに浮かび上がり、その光景が欧州で訪れた数々の教会で出会った景色と重なり、何故、初めて訪れた教会が懐かしく感じたのかという忘れかけていた疑問に対して答えを見出す貴重な時間となりました。

心に響く建物は、全て時間というお金では得ることのできない悠久の価値によって裏打ちされているとしみじみ感慨にふけると同時に、今後も、このわがまち風景賞がそれらを守り、後生に伝えようと努められた人々の想いがこめられた建物が、郷土のほこりとして未永く、変わらぬ時を刻印し続けることができる大きな支えとなるよう、自らの責務を全うしようと思いを新たにしました。

(星野管工株式会社)

## 『風景とは何か』

プロジェクトメンバー 赤池 孝彦

4回目の参加。今年はプロジェクトメンバーとして立ち会う。昨年プロジェクトメンバーは投票も講評もなかった。今年は案件と審査員の選出のほかに、投票も講評もあるという。このプロジェクトを立案しているメンバーが審査員と案件を選出し、審査員とほぼ同数のメンバーで自らも投票する。このシステムは、おかしくないか。案件を問うているのではないことに注意されたい。

黒保根・新里エリアは、看板の類が目障りな国道を外れて、この季節このエリアに佇めば、あえて「賞」など必要もないような気もしている。

風景とは何か。モノかコトか、その名称か意味か、その解釈をめぐる「狂言」なのか。案件からは、ていねいな説明とあたたかいもてなしも受けた。これも心象/風景を構成するもので

あろう。

最後に、これからの桐生の方向性を示す建築については、選考途中で漏れた大雄院の山門や三重塔、六角堂などではなく、「大雄保育園」であろう。看板・遊具、その他、細部までデザインしていただきたかった。

(桐生森芳工場)

### 『わがまち風景賞はまちづくり運動』

プロジェクトリーダー 佐々木正純

この風景賞は、桐生の個性あるまちなみを形成している建造物や空間等のうち、特に良質な風景を創出しているものを表彰するものです。私は、風景賞に選ばれた空間は、まちに活力をあたえるエネルギーを持っている必要があると考えています。

人々は空間をつくり、生活してきました。そして、多くの建造物は、所有者や地域の人たちにより大切に残され、かつ新たな手が加えられてきました。中には全く別な用途に再生される例もあります。これらの空間の創出、維持管理の行為は、個人的な行為と思いがちですが、実はわれわれの生活や心情を直接的に、また間接的に影響を与えています。つまり社会活動となるわけです。

この様に、人々の生活行為によって生み出された空間のうち良質なものを表彰する「わがまち風景賞」は、まちづくり運動そのものであることがわかります。

今年度に出選された風景は、それにふさわしい空間で、すばらしいエネルギーを発生し、われわれを魅了しています。その空間が生まれる時代背景やそれを創出した人物、それを現代にまで維持管理した人たちの経緯を知るとその思いがますます強くなります。

来年度は10年目の櫛目にあたります。様々なイベントなどを企画し、さらに多くの方々に「わがまち風景賞」を知っていただき、まちづくりに参加できるよう計画を練っていきたくと考えています。

(桐生工業高校教諭)

## 2 . 審査経過

「2009わがまち風景賞」は、平成21年1月末から3月末まで案件の募集を行った。

募集チラシを桐生市内各所に配布し、応募ポストは市内4か所(有鄰館、市民活動推進センターゆい、桐生織物記念館、桐生商工会議所ロビー)に設置、推薦者の利便を図った。推薦・応募案件は、延べ43案件にのぼった。今年はプロジェクトチームが意見を集約し、現地視察会を行う案件を事前に見学した。また、審査委員メンバーも一新し、バスによる現地視察会と案件選出の審査委員会の日程を別にすることで、スケジュール的にも余裕ができ、冷静、慎重な審査を行うことができた。

審査委員会は4月26日(日)に第1回審査委員会を開催し、現地視察を行った。午前8時に桐生商工会議所会館をバスが出発。審査委員13人、プロジェクトメンバー6人、事務局3

人を加えて、総勢22人の参加となった。現地視察は黒保根町、新里町、旧市内から11件で次のようなコースを回った。

常鑑寺、群馬県第二番小学校、関口家住宅群と観音堂、千本木家住宅、大雄院、旧大東のノコギリ屋根工場、上毛電鉄と鉄橋(車内)、旧園六織物のノコギリ屋根工場、桐生大学附属幼稚園、f.first、ショコラ・ノア

朝のうちはあいにくの天気で傘が必要だったが、早々に回復しそれぞれの案件をじっくりと見ることができた。各審査委員のコメントを参照していただきたい。

現地視察については、黒保根地区は町田プロジェクトメンバー、新里地区および旧市内は佐々木プロジェクトリーダーを中心に各推薦者が詳細に説明した。

4月29日(水)に第2回審査委員会を開催し、入選案件の選出を行った。案件に対するそれぞれの思いや意見が活発に発表され、予定時間を大幅に過ぎ白熱したものとなった。2度の投票の結果、「2009わがまち風景賞」5案件が選出された。



### ファッションタウン桐生「わがまち風景賞」

- 2001 有鄰館・アッシュ・泉新・宮本町和洋折衷住宅群・山手通り・本町1、2丁目
- 2002 今源織物・金善ビル・桐生織塾・群大同窓記念会館・芭蕉・錦桜橋
- 2003 矢野本店店舗・桐生天満宮古民具骨董市・菱の氷庫・後藤の鋸屋根工場・須藤邸
- 2004 大川美術館・田村家住宅・桐生森芳工場・彦部家住宅・無鄰館
- 2005 金谷レース工業・南川潤住宅・日本キリスト教団桐生教会・樹徳高等学校木造校舎・桐生新町西裏路地
- 2006 元宿浄水場の昭和初期の建物群・鳳仙寺・玉上薬局・ぐんま昆虫の森・旧水沼製糸場
- 2007 織物参考館“紫”・旧東洋紡織工場・藤生家住宅・水道山記念館坂道のある風景・旧書上商店ゆかりの建物群
- 2008 ぐんま製茶・桐生が岡遊園地・善昌寺・黒保根町交流促進センター・新里のサクラソウ群落